



なぎさ

小松市立安宅小学校 学校だより

NO. 15

令和5年3月22日

校長 広見 理恵

1年間の感謝を込めて



あと少しで令和4年度も終わりです。この一年間、本当にありがとうございました。一昨年はコロナで2か月の休校、昨年は5月と3月に二度の休校と、コロナの対策に追われた二年間でしたが、今年はコロナでの休校は一度もなく、保護者の皆様に参観していただいた三年ぶりの運動会を始め、授業参観、遠足、合宿、自主プラン、児童集会、六年生を送る会、卒業式と、多くの行事を工夫しながら、行うことができました。

4月からは、マスクも「個人の判断」となり、多くの行事をもっとよりよい形で行うことができるのではないかと思います。

思えば、一年生が入学した4月6日以来、あっという間の一年間でした。皆様のご協力のおかげで、安宅小の子どもたちは安心して、勉強や日々の生活を送ることができています。

毎日登下校を見守って下さっているわが町防犯隊の皆様、学校の教育活動に参加していただいている地域の皆様、そして本校に温かなご支援をいただいている保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。雪が降り積もった休日には、運動場から子どもたちの玄関まで、どなたかが雪かきをして下さっており、驚きと同時に感謝の気持ちでいっぱいになりました。本当に保護者の皆様・地域の皆様には、この一年、安宅小のためにご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

17日(金)の卒業式では、54名の卒業生が巣立ち、春には42名の新一年生が入学します。来年度もかわらぬご支援とご協力をお願いいたします。



卒業お話し会

「なぎさの会」の皆さんによる、卒業お話し会が、卒業を前にした3月9日に行われました。佐野洋子さんの「おぼえていろよ、大きな木」の絵本を、音楽やペープサートを使い、なぎさの会の方全員で読み聞かせていただきました。人は何度でもやり直せること、一つしかないものがこの世にはあることなど、たくさんのメッセージのこもった読み聞かせの会でした。

なぎさの会の皆さん、ありがとうございます！



ありがとうございます！

特定防衛施設周辺整備調整交付金の助成を受けて、「マット3枚」「立奏用木琴1台」を購入しました。大切に使用させていただきます。

晴れ晴れとした笑顔での旅立ち ～令和4年度卒業証書授与式～



3月17日(金)、令和4年度卒業証書授与式が行われました。前日、5年生が心をこめて準備してくれた会場で、来賓・保護者の皆様が見守る中、54名の卒業生が安宅小を巣立っていきました。

今年の卒業式は、歌・言葉以外はマスクを外して行ったので、卒業証書授与では改めて卒業生一人一人の顔をしっかりと見ることができ、この3年間でふり返って感慨深い思いでした。在校生代表5年児童2名によるお別れの言葉は、長い文章を暗記して心を込めて伝えている姿に感動しました。そして卒業生のお別れの歌と言葉。さすが卒業生。言葉ははっきりと堂々と、歌はハーモニーと声がとても美しく（「最後のチャイム」は音程を取るのが難しい曲なのですが、高音と低音がとても美しかったです！）卒業生の思いをのせた美しい歌声が会場中に響きわたりました。

そして最後の全校児童でのお見送り。大きな拍手とたくさんの「おめでとう」の中、54名の卒業生は晴れ晴れとした笑顔で、安宅小から巣立っていきました。

卒業生への感謝を式での態度で伝えようと、5年生が卒業式のため「感謝想卒～感謝の気持ちがこもった卒業式にしよう～」を考えてくれました。これは私の長い教員人生でも初めてのことです。そうした在校生の主体的な行動のおかげで、素晴らしい卒業式となったことを心から嬉しく思います。



引き継ぎ式



卒業式予行練習後に、6年生から5年生にバトンを渡す引き継ぎ式が、全校児童参加の中で行われました。バトンを渡された5年生が午後の卒業式準備で、さっそく責任を果たす姿が頼もしかったです。